

資料 2-1 平櫓排水路検討の発掘調査案について

◆今回の委員会での報告・検討内容

1. 平櫓排水路検討の発掘調査案【検討】

これまでの検討経過（重要文化財平櫓排水路検討について）

【平成27年度】

11月27日：第2回特別史跡熊本城跡保存活用委員会 史跡部会・建築部会（合同開催）

○東竹の丸北（平櫓周辺）排水遺構調査及び整備について

→調査計画承認

参考資料-1 東竹の丸北（平櫓周辺）排水遺構調査計画

【平成28年度】

6月17日付けで現状変更等許可（28受庁財第4号の433）

7月：平成28年熊本地震の影響で、平櫓周辺石垣（H125）背面に地割れが発生し、雨水対策が必要となり、緊急対応として東竹の丸北（平櫓周辺）

排水遺構調査の排水路部分の確認調査、埋没していた排水路を検出し、遺構面に影響がない範囲で仮排水路整備を実施

参考資料-2 平成28年平櫓排水路確認調査成果

【令和2年度】

12月15日：建築・石垣・構造合同WG ○平櫓発掘調査現地視察

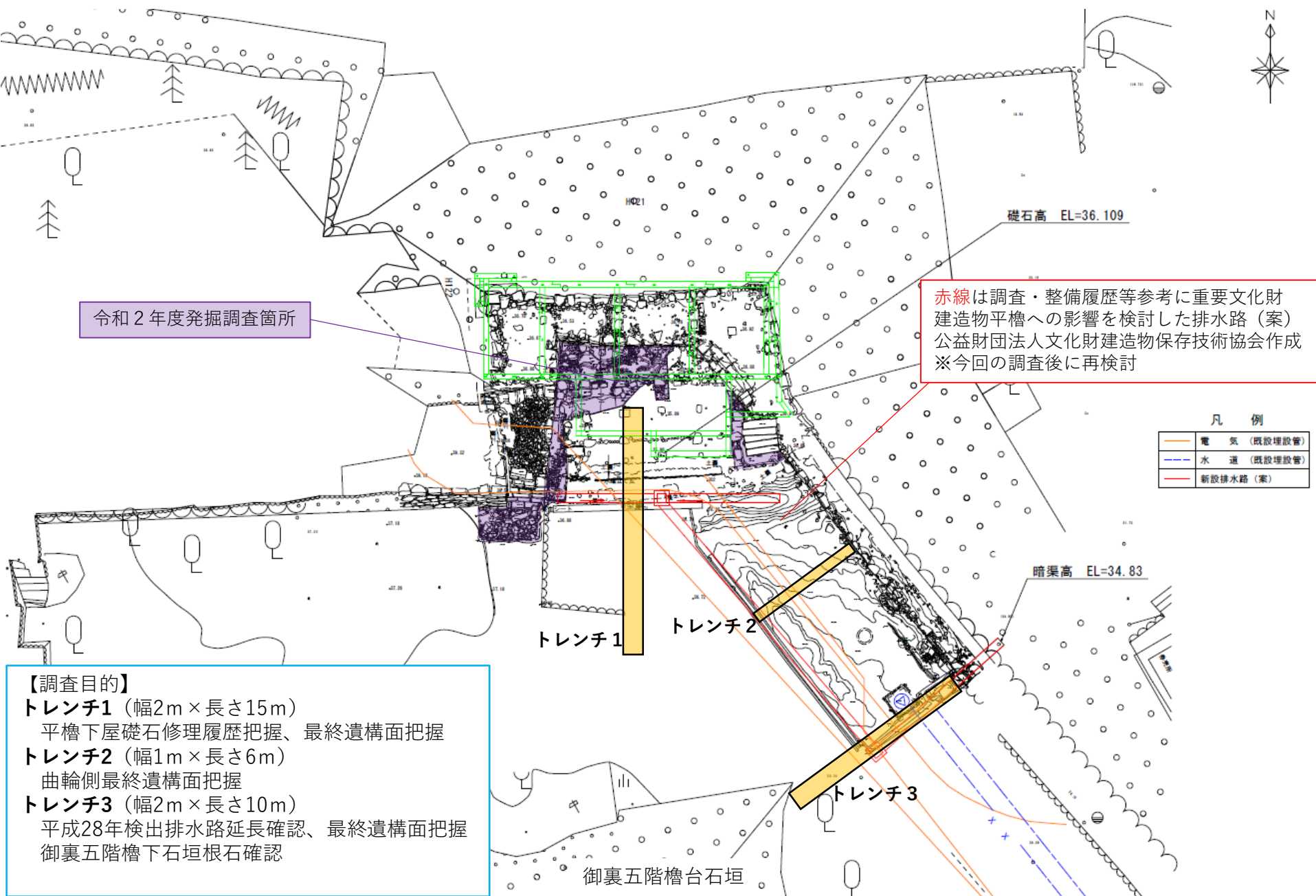
→平櫓下石垣修理に合わせて平櫓周辺の排水路を検討すべき

1. 平櫓周辺排水路検討の発掘調査案【検討】

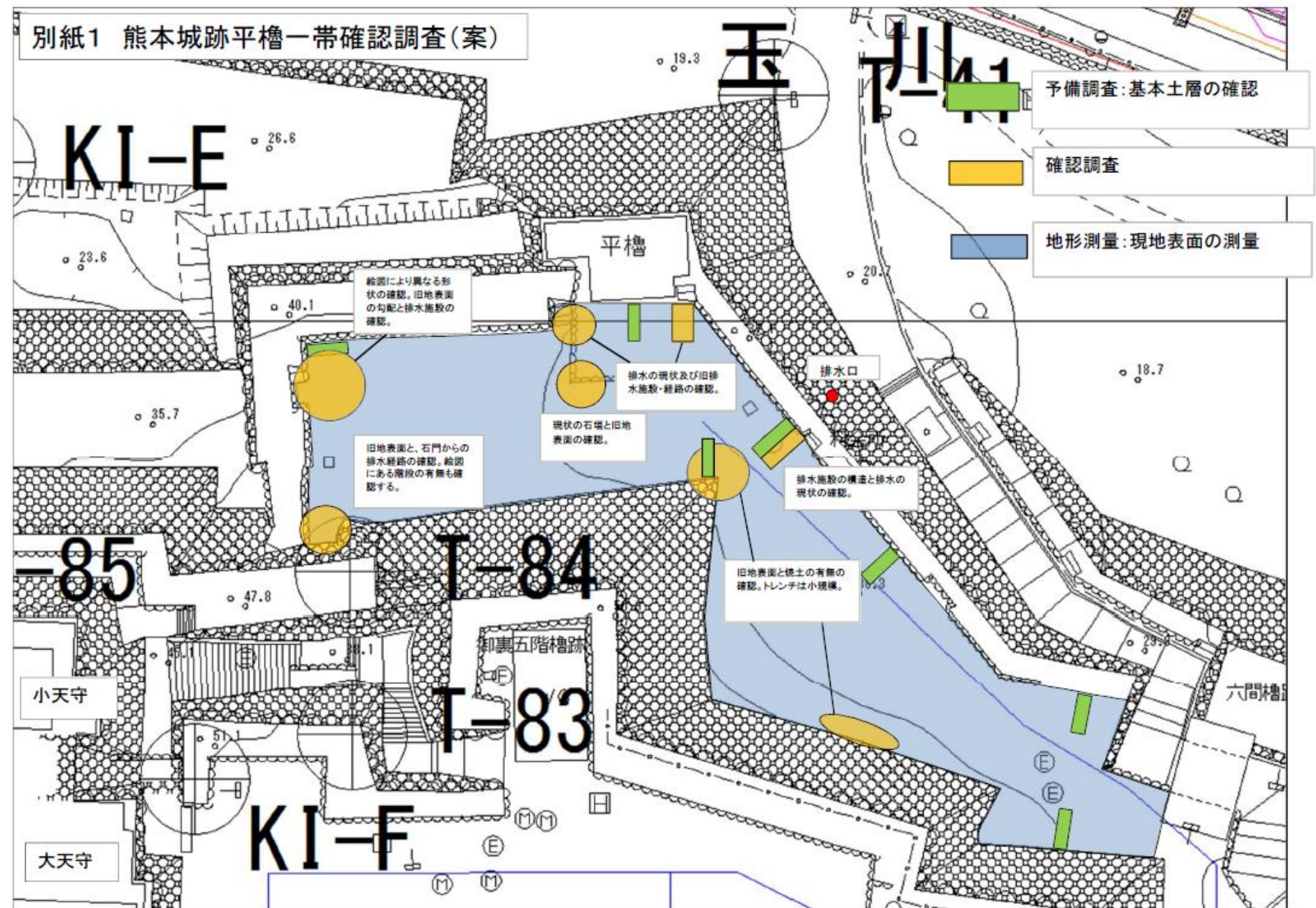
平櫓排水路検討の発掘調査案について検討していただく

資料2-2 令和3年度平櫓排水路検討の発掘調査案

資料 2-2 令和 3 年度平櫓排水路検討の発掘調査案



別紙1 熊本城跡平櫓一帯確認調査(案)

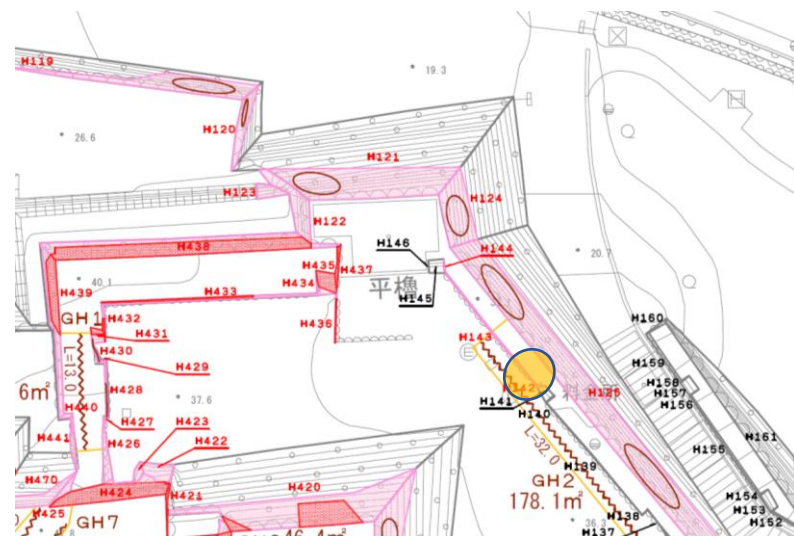


参考資料-2 平成28年平櫓排水路確認調査成果

調査期間：平成28年7月1日～7月19日

調査概要：地表面下約40cmより排水路を確認した。出土遺物より、現代に埋め戻されたことが分かっている。排水路は、深さ約40cm、幅約50cmで、排水路を構成する石組は安山岩を使用しているが、蓋石のみ凝灰岩である。今回検出した範囲では蓋石は側石基底面は石塁の曲輪側のみ砂漆喰で固められており、石塁内部の基底面は確認できていない。

熊本城調査研究センター 『熊本城調査研究センター年報3 平成28年度』2017より



排水路位置図



土層断面 南から



水路検出状況 西から



H143排水口付近オルソ図